

地域の力を学校に!

PTCA プロジェクトとは?

問 社会教育課  
☎ 52-5813



今回は、東田布施小学校PTCAプロジェクトを運営している西本篤史さんにインタビューを行いました。  
PTCAとは、どんな意味? PTAにC(コミュニティ)を加えて、保護者、先生、地域住民の協力のもと『地域の子どもは地域で育てる』という意味です。

プロジェクトの内容は? 放課後に英会話や茶道、習字や将棋、手品などを地域住民から学ぶ放課後教室や、土日にはホテルの観察会や田んぼの生き物調査を実施しています。学校の授業では、社会科の郷土学習で伝統芸能『大波野神舞』の体験も行い、文化の伝承に取り組んでいます。

これまで苦労した点はどこですか? このプロジェクトを立ち上げたのが平成17年でした。当時は地域



住民が先生として子どもに何かを教えるという発想がなかったから。学校の敷居も高かったし(笑)。でも、活動の様子をまとめたPTCA新聞を、学校だけでなく地域にも回覧するようになり、活動の輪が地域に広がりました。

地域と学校の連携について 地域が学校に入ることも大切です。同時に、子どもたちが地域に出て学ぶことも多いと感じます。例えば、放課後教室で手品を習った子は、その腕前を大勢の人に見てもらいたい。それで公民館まつりで披露しようとなる。子どものやる気が違います(笑)。また、地域の自然に触れることで子どもの感性が磨かれる気がします。

今後の抱負は? 今後、ますます地域と学校の連携は進むと思いますが、話し合いで終わるのではなく地域で協力して、子どもを育てる取組の一つでも実行に移していきたいです!

No.191

# サークルスケッチ

## 実用習字教室

- 講師 藤本 美子
- 日時 毎月第2・4火曜日  
午後1時~午後4時
- 場所 西田布施公民館
- 問合せ先 ☎52-4448



「のし袋や年賀状を筆で書きたい」という思いから、平成8年に6人で教室が始まり、現在10人です。清水先生・山口先生の後、平成21年から藤本先生のご指導のもと、基礎的な漢字、仮名文字、ペン習字などを和気あいあいの雰囲気の中で楽しく勉強しています。

練習の内容は、秋の文化祭の展示作品を中心に、年間の計画をみんなで話し合って決めていきます。日常生活に役立つ書として、冠婚葬祭用ののし袋、宛名書き、年賀状、文章の書き方のほか、短冊や色紙、水墨画などの作品づくりにも挑戦しています。



練習の後のティータイムは気分転換になり、会話がはずむ楽しいひとときです。書展の鑑賞、研修旅行、食事会など親睦を兼ねて出かけるのも楽しみのひとつです。